

## 会 議 録

会議名称	令和4年度第3回伊達市史編さん委員会		
議 題	①伊達市史続刊（仮称）構成案について		
開催日時	令和4年11月7日（月）午後1時30分～午後3時30分		
場 所	伊達市役所本庁舎2階会議室B		
出席者	委員6名（欠席0名）、(株)須田製版（市史編さん業務受託者）4名		
	所管部課名	総務部総務課	
公開 非公開 の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	0人
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

**【会議録】**

**1. 開 会**

**2. 議 事**

①伊達市史続刊（仮称）構成案について

事務局：書面で開催した前回の編さん委員会でもいただいたご意見やご質問に回答する形で構成案を決めていきたいと考えている。

※意見や質問及び回答については、別紙のとおり

事務局：今回新たにいただいたご意見等も踏まえ、改めて構成案を提案する。

②その他

(株)須田製版から版型についての提案が示された。

(株)須田製版：現在の伊達市史はB5サイズで縦書き、文字サイズは「13Q」。

電子書籍等の活用や読みやすさを踏まえて、予算の範囲内でサイズ等の検討が可能。

提案サイズ：A4、A B、B5

縦書き or 横書き

文字サイズは一回り大きい「14Q」が主流となっている。

→この場では決めかねるため、後日改めて決定することとした。

**3. 閉 会**

No.	ご意見・ご質問等	回答等
1	有珠山の活動については、第1編第1章で述べられると思うが、近年の活動史と噴火災害についての最新の情報を盛り込んでほしい。	盛り込むよう調整する。
2	第6編第6章「防災と防犯」の中に噴火、地震、津波、洪水等（ハザードマップを含む）も含まれると思うが、防犯と同一章はなじまない気がする。	防災と防犯は章を分け、防犯は「警察と消防」といった節を新たに設け、その中で記述するよう調整する。
3	第2編（2）第6章（2）「壮瞥町の”脱落”」は”脱退”もしくは”辞退”とすべきかと思う。	「脱退」という表現としたい。
4	第2編（2）第2章「明治初期からの伊達邦成主従の集団移住」を「明治初期からの伊達邦成主従と柴田藩の集団移住」へ変更した方がよいのではないか。明治3年から始まった仙台藩の移住は、明治14年までの10年間に、移住人数 亙理藩 2,648人、柴田藩 123人	章名を「仙台藩亙理領主・伊達邦成主従の集団移住」のように改題して再度触れるよう調整する。
5	同章に「明治十二傑に選ばれる」を追加できないか。 侯爵 伊藤博文（政治家） 医学博士 佐藤 進（医師） 文学博士 加藤弘之（文学家） 釋雲照律師（宗教家） 橋本雅邦（美術家） 侯爵 西郷従道（軍人） 法学博士 鳩山和夫（法律家） 男爵 伊達邦成（農業家） 福沢諭吉（教育家） 古川市兵衛（工業家） 理学博士 伊藤圭介（化学家） 渋沢栄一（商業家）	東京の博文館という出版社が創業12周年を迎えたことを記念して、同社が発行する雑誌「太陽 臨時増刊」号において、「明治十二傑」という特集記事を組み、その中の一人に伊達邦成が選ばれている。選ばれた理由を原典の記載に立ち返って確認のうえ、明記する方向で調整したい。
6	第2編（2）第6章に「伊達市の名前について」を明記してほしい。「既存の市の名称と同一となり、または類似することとないよう十分配慮する・・・」（1970年3月12日 自治省（現総務省）事務次官通知）とありながら、2006年に福島県の合併した市に名前を認めた経緯を明記してほしい。日本全国市数約800の内1970年以降、伊達市のみが同一名称である。	3市町村で合併協議会を設立した時は「対等合併とする」「新市名称は住民公募で決める」と決定されたが、2市村での合併となり「編入合併とする」「新市名称は伊達市とする」となった経緯がある。自治省（現総務省）は通達を出していたが、平成の大合併の際には「距離が離れていること」「既存の市から異議が出ないこと」を条件に、態度が柔軟したようだ。当時の合併協議会の記録等を踏まえ、記載する方向で調整したい。
7	大滝区は合併後16年を経過し、第3編（総合計画、自治等）では一体的に記述されており、第4編以降も同様でよいのではないか。他の委員の意見を伺いたい。合併以前は残して記述願いたい。	他の委員の意見も踏まえ、第4編以降も章立てはしないが、大滝村（区）のことがわかるような記述とする。
8	構成案について「説明資料」が1枚付与されているが、この程度の内容でどう表決せよというのか。	書面会議での開催となり詳しい説明ができず、お詫び申し上げます。だが、質疑や要望が多数寄せられた場合は、書面のみで承認を得ることはせずに委員会を開催し、説明する機会を設けようと考えていた。また、今後書面で開催することがあれば、なおわかりやすい資料の作成を心掛ける。
9	委員会の初会合において市長から、多くの市民に触れ読んでもらえる内容・構成を望む旨の要望があったがそれがどこに反映されているのか。	今回の市史について、先史時代や開拓時代の記載は概略と新たな発見についての記載のみとし、前回の市史以降（平成から令和）の出来事を掲載することで比較的年代の若い方も関心や興味のある内容であり、そのような構成になっている。また、ネット環境の普及に伴い、誰でも閲覧できるよう電子書籍等の活用を検討している。
10	前回の会議において、今後は月一回程度の委員会審議を継続して委員からの要望を聞きたいとの言はどうなったのか。何もかもコロナのせいせず、イベントや講演会等の不特定多数の来場や飲食などと違い少数の会議は感染対策を講じることにより開催可能と考える。	市の方針として、コロナ感染者が急増している中で委員全員での委員会開催は見送った。だが、人数を絞ってオンラインでの開催を行ってきた。今後、国の対応にも合わせ、感染状況を踏まえうえで、感染対策を講じて開催していきたい。また、今後は委員会の開催方法（月例開催等）も検討する。

No.	ご意見・ご質問等	回答等
11	前回の会議で市域の各地区の独自の歴史的な歩みを記載してほしい旨発言したが、それについての記載がない。	現在の「伊達市史」や「新稿伊達町史」でも触れられていなかったが、集落の形成とその起源を明記する必要性は感じられ、より親しみが持てると思われるので、記載する方向で調整したい。だが、残っている資料等が各地区で異なるため、郷土史研究会の協力をお願いする。
12	執筆者の選定基準や略歴について（本当にこのエリアを知っているのか疑問）	それぞれの分野に専門性をお持ちの方やこれまで自治体史の執筆に関わってきた方をお願いしているが、地元の歴史に詳しい方への取材や史料等をベースに執筆いただく予定である。最初から特定の地域に関する歴史、専門的知識や見解を持っている研究者・専門家はそれほど多くなく、他の自治体史を経験している執筆者は比較対象を持っているため執筆に有利な面もある。
13	第2編第3章はなぜ「道東」にページを割くのか。	幕府の政策やアイヌの人々の活動については広い視点から記述する必要があると考えており、東蝦夷地の中でも最後まで和人権力と対抗した道東地方のアイヌ集団について取り上げる必要があると考えている。
14	「第2編第3章」の「なぜ道東にページを割くのか？」に関連しているが、今回のページ配分の意図を知りたい。これまでの市史（町史）の再編集ではないと当初聞いていたが、現在の礎を築いたのは紛れもない亙理伊達家中の開拓によるものである。だが、一番開拓に苦勞と試行錯誤があった明治時代の話が、現在の伊達市史のページ数からだいぶカットされ、「前近代」の「シャクシャインの戦いと道東地域」と同じページ数になっているのはなぜか。	明治期の移住・開拓については「伊達市史」「新稿伊達町史」で丁寧に取り上げられてきた経緯があり、今回の市史は直近30年に重点を置く方針のため、近代に割くページ数を減らしていた。また、今委員会の中で議論に上がった第2編（1）第2章から第5章については、章名もわかりづらく曖昧であるため再考したい。加えて質問11にある各地区の歩みを踏まえボリューム感やバランスも考える。